

東京学芸大学こどもの学び困難支援センター

第21回

公開研究会

テーマ

学び困難支援のみちしるべを探る

ーOECD「教育効果指標」と

sure「社会的自立チェックリスト」の開発の取組からー

【話者】荻上健太郎(東京学芸大学 学長補佐、教育インキュベーション推進機構准教授・OECD日本共同研究プロジェクトリーダー)、sureメンバー

案内

【日付】2024年11月5日(火)

【時間】18:00~20:00

【場所】オンライン

参加費無料・
事前申込必要

申込はこちら→



概要

東京学芸大OECD日本共同研究プロジェクトでは、教育行政や学校現場での様々な取組を「エージェンシー」や「ウェルビーイング」の観点からはかる教育効果指標の開発に取り組んでいます。他方でsureでは、自立へ向かうための学びに着目した「社会的自立チェックリスト」の開発に取り組んできました。今回は、それぞれの取組を紹介しあい、対話を通じて、学び困難支援において子どものどのような状態や変化を望ましいものと捉え、みとめることが求められるのかについて考えていきます。

ご参加に際して配慮の必要な方は、
2週間前までにお知らせいただきますようお願いいたします。

お問い合わせ：✉ info@suretgu.com



sure
for All
Children